平成３０年度　第２回 温海地域振興懇談会

次　　第

日　時　　平成３０年８月９日(木)
　　午後１時３０分～
場　所　　温海庁舎 ６階大会議室

１．開　　会

２．あいさつ

３．報　　告
市民からの意見聴取概要について　　資料No.１

４．協　　議
（１）温海地域の施策の方向性（案）及び具体的事業（案）について
資料No.２

（２）その他

５．閉　　会

温海地域振興懇談会委員名簿

任期：平成29年6月1日～平成31年3月31日

役職名等	氏名	備考
会長	忠鉢孝喜	
副会長	佐藤満也	
委員	本間文夫	
委員	菅原久継	
委員	佐藤清八郎	
委員	若松邦彦	
委員	本間岩	
委員	佐々木眞人	
委員	遠藤正司	
委員	佐藤美代子	
委員	齋藤武大	
委員	高橋清	
委員	五十嵐伊都夫	
委員	五十嵐正直	
委員	本間加知子	

【市関係者】

所属	職名	氏名	備考
温海庁舎	支所長	渡会悟	
温海庁舎　総務企画課	課長	粕谷一郎	
温海庁舎　市民福祉課	課長	佐藤美香	
温海庁舎　産業建設課	課長	百瀬政行	
温海庁舎　総務企画課	総務地域振興主査	庄司益美	
温海庁舎　総務企画課	地域まちづくり企画調整主査	伊藤隆	
企画部　地域振興課	地域振興専門員	本間育子	

資料No. 1

市民からの意見聴取概要

1．開催経過と今後の予定

開催日	団体名等		意見聴取等のテーマ
5月10日	鶴岡まちづくり塾 温海グループ	ま	温海地域の「まちづくりの方向性」
5月22日	温海温泉旅館組合青年部	青	あつみ温泉の振興
5月30日	温海地域振興懇談会	懇	これからの 10 年で温海地域の活性化に重視したい着眼点
6月6日	あつみ湯けむり女子会	女	温海地域の「まちづくりの方向性」
7月3日	鶴岡まちづくり塾 温海グループ	ま	この 10 年で鶴岡市温海地域に大切なこと（もの）
7月9日	温海農業次世代担い手ミーティング	農	担い手の確保と 10 年後の温海地域の農業 廃校施設の利活用 中山間地域ならではの作物振興
8月9日	温海地域振興懇談会		温海地域の今後の「施策の方向性」及び「具体的事業」
8月24日	温海地域農業振興会議		鶴岡市農業・農村振興計画（つるおかアグリプラン）の策定
8月30日	自治会長会		地域振興の方向性等（市長との対話集会）
9月11日	温海地域の未来を語る会		各種地域振興団体の活動方針や温海地域の未来予想等（予定）

2．意見聴取の概要

1．あつみ温泉の振興			（キーワード）
1	経済効果を感じれば後継者確保につながる。	青	稼ぐ力 温泉街の魅力 来訪動機 戦略 空間・景観
2	マンパワーに限界があるため、「イベント」よりも「魅力ある日常」を意識した施策を展開するべき。	青	
3	魅力ある店舗（来訪動機）はチットモッシェしかないのが現状。もう２～３魅力ある店舗があれば、あつみ温泉は劇的に変わる。	青	
4	あつみ温泉は、「どんな価値を提供」していくのか、再考したほうがよい。	青	

5	朝市広場の日中の賑わいづくりは「検証しながら」「変化させながら」魅力あるスポットを目指す。	青	
6	あつみ温泉はアットホームな温泉地と思っている。	女	
7	ばら園はバリアフリーになっていない。足腰に優しい観光地を目指すべき。	女	
8	朝市広場の店舗をもっと借りやすい環境に。	女	
9	多くの人に聞かれるが、ばら園に足りないものは駐車場。	女	
10	空き店舗の活用はいいが、貸してくれる店があるかが課題。	女	
11	これからの温泉地は、癒しの場作り、高齢者に優しい街。	女	
12	高齢者も楽しめるように、温泉街の空き地を活用したばら園の拡大はどうか。そういったふうにきれいな環境で過ごせることが女性にとってはありがたい。	懇	

２．日沿道全線開通や地域特性を活かした地域振興			（キーワード）
1	価値観は人それぞれなので、こんな物がと思うようなものに価値を見出す方もいる。	女	新たな価値 観光資源 発信 稼ぐ力
2	恋する灯台に認定された鼠ヶ関灯台を活用した企画やＰＲ等もやっていきたい。	懇	
3	地域の資源を発信するため、観光施設の整備を行い経済の発展につなげることが重要だ。	ま	

３．交流を核にした地域振興			（キーワード）
1	ＮＰＯ法人の活動展開に併せて、素材のＰＲ拡充を図るべき。	ま	発信 素材の発掘 体験観光 記録・継承
2	温海地域全体の観光コースの提案やＰＲが不足している。	ま	
3	じゃらんネットでも体験メニューが増えている。	ま	
4	地域の伝統文化・祭・食文化・習慣などを記録し、豊かな暮らしや先人の生活の知恵を継承することが重要だ。	ま	

４．農林水産資源のブランド化			（キーワード）
1	所得がないところに生活が成り立たないわけで、地域の所得を上げるという着眼点も必要ではないか。	懇	稼ぐ力 新たな価値 ブランド・プライド
2	農業関係を中心に所得を上げる施策、特に高速道路近隣の施設産業を充実させるべきと考える。	懇	
3	廃校跡の活用という視点があったが、旧福栄小学校に、松ヶ岡関連の養蚕を取り入れる事業が進んでいるようだ。鶴岡はシルクの街でもあるので、是非大々的に展開してもらいたい。	懇	

4	日沿道が開通して鼠ヶ関に道の駅ができる。産直施設があれば売る場所ができる。文化として農業を守りながらお金に換える仕組みを考えるべき。	ま	
5	収穫した野菜等を「お金」にしようとする意識が薄いと思う。	農	
6	楽しく農業をしてお金を得て飲みに行く。それが楽しい農業の入口ではないか。	農	
7	レタス２０ａで１００万とれる事例がある。それに対しコメだとせいぜい４０万。　技術と経験があればレタスはコメの倍収入がある。このように探すとおいしいものはある。「おいしいもの探し」のような夢のある話をしていくのもいい。	農	

５．特色ある自治機能の維持			（キーワード）
1	温海地域は組織（団体）が多く、意思決定などの関係で動きにくい感じ。個人が動きやすい環境づくりが必要。	ま	自治機能 コミュニティ 人材育成 新たなツール
2	公共的な財産をしっかりと管理していく体制の維持。	ま	
3	地域への誇りを持ち、地域のことを自分のこととして考えられる人を増やすことが重要だ。	ま	
4	新たな情報連絡手段（ＬＩＮＥなど）が必要になる。	ま	

６．暮らし続けられる環境			（キーワード）
1	親世代が地域で楽しんでいる「姿」を子供達にもっと見せるべき。その際の「楽しむ場所」「集まる場所」が不足している。地域の公民館では敷居が高い。	ま	教育 チャレンジ 「足」の確保 ハンデの緩和 暮らし続ける 関係人口
2	ものごとに対し、リスクを気にしすぎるあまり「チャレンジ精神（まずやってみよう）」が薄い。	ま	
3	医療機関への通院や通勤通学に時間的ロスが大きい。それが、温海地域から市街地への転居（転出）する大きな要因。	ま	
4	市街地への通学に５０分。親が子供を高校まで送迎。温海地域は「時間」「費用」がかかる。天候次第ではＪＲがストップ。高齢者は医療機関への通院が困難。	ま	
5	大人が地域に対して否定的ではだめ。	ま	
6	越沢の高校生に取材したところ、将来帰ってくる回答多い。何故か。面白いから。面白い人が多いから。 集落に対する愛着を子供の頃から感じさせるべき。	ま	
7	子供に、自分の思いなどを「言わせる場」が有効。	ま	
8	若い人たちが定住できる場所や環境づくりを進める必要がある。	ま	

9	若い人たちが楽しんで働ける場、若者のニーズを考慮した働く場をいかに作り上げていくかがポイントになってくるのではないか。	ま	
10	全国的な人口減少社会の中、今住んでいる人が楽しく健康に暮らしていくにはどうすれば良いのかという視点で考えるべきではないかと常々思っている。	懇	
11	温海地域婦人会と婦人連絡協議会から脱退する組織が多く残念に思っている。温海地域婦人会の会員も年々減少している。各地域の活動で女性の果たす役割は大きいが、適齢の女性の絶対数の減少は心配である。	懇	
12	これまで、社会教育に対する施策が市として十分でなかったのではないかと感じている。特に、婦人会、老人クラブ、青年団等の活動を見過ごしてきたのではないかと。	懇	
13	高齢者の移動手段に関しては、小型・中型のバスを活用し乗継に配慮した地域交通や、各地域の実情に合わせた移動手段の確保をお願いしたい。	懇	
14	山大農学部等ともコラボレーションしながら、新「道の駅」などの「出口」を見据え、旧温海高校を活用した高付加価値農業（水耕栽培など）を展開できないかと考えている。	懇	
15	首都圏等で活躍している地域出身の方々から地域活性化のお手伝い(応援)していただくよう働きかける施策はどうだろうか。	懇	
16	鼠ヶ関では「放課後子ども教室」を開いているが、働いている子育て世代の一助になっていると思うし、そういった取り組みの支援が必要。	懇	
17	（廃校活用は）農業では厳しい。まちづくりという観点で農業にこだわらないほうがいいのでは。	農	
18	特区の活用、まちづくり会社の設立など新たな取り組みにチャレンジするべき。	ま	

■ 温海地域の施策の方向性（案）

資料NO.2

現状と課題

- 高い品質の農林水産資源
- 特色ある在来作物
- 各地に伝わる伝統・文化・歴史資源
- 高い集落自治機能
- あつみ温泉
- NPO等地域活動団体
- 豊かな自然環境

少子・高齢化 人口減少

地理的条件（地域の9割が山林）

- 農業の規模拡大が困難
- 若者が働く場の不足
- 地域の実情に応じた移動手段が不足
- 地域コミュニティ基盤の脆弱化
- 商店・医療等生活サービス機能低下
- 介護人口の増加
- 土砂災害・津波等の災害リスクが高い

外部環境の変化

- 日本海沿岸東北自動車道
- ICT※の進展
- 関係人口の活用
- 新たな消費行動

地域の活性化

- 地域を支える人口
- 地域を支える経済
- 地域を支える環境
- 地域を支えるﾌﾞﾗﾝﾄﾞ･ﾌﾟﾗｲﾄﾞ

※ICT:Informaition and Communication Technology「情報通信技術」

重点的課題・地域振興の方向

- ◆「日沿道を地域の活力につなげる」（地域資源を活かした産業振興）
- ◆「住み続けられる地域環境の形成」（地理的条件を踏まえた人口減少対策）
- ◆「特色ある集落自治機能の維持と地域活動団体の振興」

鶴岡市 総合計画 分野別施策

- 漁業
- 林業
- 社会基盤
- 防災
- 福祉
- 子育て
- 教育
- ⋮

温海地域振興計画の施策

1. あつみ温泉の魅力向上と賑わいの創出
① あつみ温泉街の景観整備
② あつみ温泉街の賑わいづくり

2. 日沿道鼠ヶ関IC(仮称)を契機とした周辺地域の活性化
① 新「道の駅」を活用した地域振興
② 鼠ヶ関地内の賑わいづくり

3. 自然・歴史・文化を活かした交流人口・関係人口の拡大
① 交流人口の拡大による地域活性化

4. 農林水産資源のブランド化
① 温海地域の食文化継承による地域振興
② 温海地域高齢農業者の生きがいづくり
③ 地域資源を活用した農村集落の活性化

5. 次代を見据えた自治機能とｺﾐｭﾆﾃｨ拠点の機能強化
① 時代に即した情報伝達手段の構築
② 地域コミュニティの基盤強化

6. 海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備
① 資源を活かした地域活力の創造
② 地域に即した交通手段の確保
③ 次代を担う人材の育成
④ 高齢者を地域で支えあう環境づくり

地域 まちづくり 未来事業

1．あつみ温泉の魅力の向上と賑わい創出

○施策の方向

温泉街の観光施設や景観の整備を進め、来訪者がそぞろあるきを楽しめる環境を確保し、併せて魅力ある店舗の整備や誘客事業の展開により温泉街の賑わいづくりに努めます。特に、あつみ温泉は平成33年、34年に節目の年を迎えることから、市民や関係団体が連携して記念事業やイベントの開催など、温泉観光地として一体感のある施策を展開します。

また、国民保養温泉地の指定なども視野にいれた、あつみ温泉の中長期的な戦略を、あつみ観光協会や温海温泉旅館組合、地域住民、行政など官民が一緒になって検討し、日沿道全線開通後も通過点とならないような魅力ある温泉観光地を目指します。

○主な施策

①あつみ温泉街の景観整備

開園から50年以上経過し老朽化した温海公園（あつみ温泉バラ園）を改修し、あつみ温泉の観光の拠点と市民の憩いの場としての整備を行います。また、温海川河畔桜並木の老木化した桜の植替えや「かじか通り」等の劣化した休憩施設、照明設備、さらに、朝市広場を観光客や地域住民の滞留拠点とするため、新たな足湯の整備や施設の改修を行い、あつみ温泉街の景観整備を進めます。

②あつみ温泉街の賑わいづくり

民間主導で集客効果の高いイベントに対し、一定の財政支援を行います。尚、平成33、34年はあつみ温泉「開湯1200年」「湯役所設置400年」の節目の年にあたることから、地域の旅館・商店など関係者と協議しながら、地域が一体となりインパクトのあるイベントの開催により、更なる誘客に努めます。また、朝市広場を有効活用した日中の賑わいづくりや地元商店の自発的な取り組み並びに新規出店者への支援により、温泉街の賑わいを創出します。併せて、温泉街の魅力向上のため、おもてなしの表現としてのバラ等の花々を植栽し、そぞろ歩きの楽しい温泉街の整備に努めます。更には、自治会、旅館組合、観光協会等が連携して温泉街の魅力向上を目的に行う取り組みに対して、まちづくりアドバイザーを活用しての助言等を行い、温泉街の更なる魅力づくりに努めます。

H30.6.10　あつみ温泉ばら園まつりの賑わい

H29.9.9　あつみ温泉野外能楽「せせらぎの能」

○具体的事業

事業名	事業内容	事業期間
あつみ温泉バラ園整備事業	高齢者や幼児、障がい者など幅広い世代が楽しめ、観光客や市民の憩いの場となるような公園へのリニューアル(バリアフリー化等)を図る。	H30～H32
温泉街景観づくり事業	温泉街の桜並木の更新、休憩施設や照明設備・足湯のリニューアルや街路灯のLED化を通して魅力ある温泉街を創出する。	H30～H34
朝市広場環境整備事業	滞留空間となる足湯の整備や新規出店のための施設改修を支援する。	H32～H33
あつみ温泉集客イベント実施事業	あつみ温泉野外能楽「せせらぎの能」の開催支援を継続するとともに、H33の「あつみ温泉開湯1200年」、H34の「あつみ温泉酒井藩公の湯役所設置400年」を記念する事業を支援する。	H29～H33
朝市広場活性化事業	朝市広場を活用した賑わいイベント「朝市広場DEひるいち」の開催を支援する。	H29～H31
温海の食PR事業	温泉街の飲食店や店舗の自慢の一品をPRするイベント「あつみ温泉食べ物自慢フェス(仮称)」の開催を支援する。	H31～H33
空店舗活用事業	温泉街への新規出店者に対し、賃借料や改装費の一部を支援する。	H31～H33
温泉街フラワー整備事業	温泉街を花等で植栽し、おもてなしを表現する。特にバラ園への誘導のため、県道沿いはバラを中心に植栽することを想定。	H31～H33
まちづくりアドバイザー活用事業	専門家のアドバイスをいただきながらワークショップや実践を進め、温泉街や鼠ヶ関地域の魅力の向上を図る。	H29～H33

２．日沿道鼠ヶ関ＩＣ（仮称）を契機とした鼠ヶ関周辺地域の活性化

○施策の方向

県境付近に建設予定の IC 及び周辺土地利用計画による道路休憩施設の整備をチャンスと捉え、鼠ヶ関地域の新たな観光の拠点とするためにハード、ソフトとも優れたサービスの提供により来場者から喜んでもらえる新「道の駅」の運営を目指します。同時に既存の道の駅「あつみ」しゃりんも体験型の観光施設として活用を目指します。

また、新「道の駅」の開設と連動し、鼠ヶ関集落内にも賑わいを創出し誘客を図り、来場者が新道の駅を拠点として、みなとオアシスである弁天島周辺から道の駅「あつみ」しゃりんまで広範囲に楽しめる観光圏づくりを目指します。

さらに、鼠ヶ関港に水揚げされる新鮮な魚介類を地元で販売する仕組みを検討し、漁業の街「ねずがせき」の知名度向上を図ります。

○主な施策

①新「道の駅」を活用した地域振興

鼠ヶ関 IC 周辺の道路休憩施設整備後の経営への参画も視野に入れ、マーケティング能力や実践能力、経営の管理運営能力を身につけた人材を育成します。また、新「道の駅」整備後の既存道の駅の有効活用を図るため、しゃりんとその周辺を RV パークや体験をメインとした施設としての活用などの検討を進めます。

②鼠ヶ関地内の賑わいづくり

みなとオアシスの構成施設となっている弁天島周辺エリアを、観光客だけでなく常に人が訪れたくなるスポットとして、IC から鼠ヶ関地内へ誘導する仕組みと、はなさき路周辺の整備、「恋する灯台」への誘導看板や案内板等の環境整備を図り、来訪者がＳＮＳで情報発信したくなるような魅力ある観光地を目指します。また、まちづくりアドバイザーを活用したワークショップ等を開催するなど、地域住民の一体感を醸成し鼠ヶ関地域の魅力の向上を目指します。

○具体的事業

事業名	事業内容	事業期間
新「道の駅」関連人材育成事業	地域資源活用などによる地域経営のノウハウ会得のための人材育成を支援する。	H33～H34
道の駅「あつみ」しゃりん整備事業	日沿道開通後の道の駅「あつみ」しゃりんのあり方や有効活用方策を探る検討委員会(仮称)を開催する。併せて、有効活用を図るための施設整備を支援する。	H33～H35
はなさき路の賑わいづくり事業	はなさき路周辺を魅力ある観光スポットとして整備するとともに、「恋する灯台」のPRに向けた案内看板等の設置及びハート型の絵馬の奉納や撮影スポットを整備する。	H33～H35
観光施設整備事業	念珠の松庭園の修繕(トイレ、東屋)や観光案内標識等の修繕。	H32～H33

H30.6.17　イカまつりの賑わい

「恋する灯台」を背景にシーカヤック体験

念珠の松庭園

３．自然・歴史・文化を活かした交流人口、関係人口の拡大

○施策の方向

温海地域が有する豊富な自然や産業及び伝統文化を活用した体験型観光や教育旅行の受入れを推進するとともに、既存宿泊施設との兼ね合いも考慮しながら、農家民泊の体制整備も進め、また、食文化をテーマとしたイベントの開催支援など、外国人旅行者を含めた交流人口の拡大を図り、地域の活性化と農村集落の維持に努めます。

○主な施策

①交流人口の拡大による地域活性化

NPO 法人自然体験温海コーディネットを引き続き支援し、体験型旅行の受け入れ拡大や交流人口の拡大を目指します。さらに、需要はあるものの、受け入れ態勢が確立されていない民泊(農泊)については、教育旅行の受入を徐々に実施しながら農家等の受け入れ態勢を整備します。

また、関川地区活性化計画の達成に向け、交流人口の拡大を目指し、地元が主体的に実施するイベントの開催に対して引き続き支援します。さらに、平成 29 年度のあつみ温泉への外国人来訪者が 3,220 人と、鶴岡市の外国人来訪者の半数を占めていることから、今後も増加が見込まれる外国人来訪者の利便性の向上のため、外国語表記の観光案内板やＷｉ－Ｆｉ環境の整備を図っていきます。

○具体的事業

事業名	事業内容	事業期間
あつみ体験旅行推進事業	豊富な地域資源を活かした体験型観光を推進するため、NPO 法人自然体験温海コーディネットの活動を支援するとともに、民泊(農泊)受入れ者の施設改修を支援する。	H29～H33
関川地区活性化計画推進事業	交流人口の拡大を図るため、関川地域活性化イベント(田舎のうまいもん食堂)の開催を支援する。	H30～H32
外国人旅行者受入体制整備事業	来訪者が多く訪れる観光施設等への Wi-Fi の整備支援や観光案内板等の外国語表記を進める。	H31～H33

H30.5　札幌西陵中学校教育旅行　「歌舞伎体験」

H30.5.13　初めて開催された「田舎のうまいもん食堂」の賑わい

増加傾向にある外国人観光客

４．農林水産資源のブランド化

○施策の方向

地域農業を牽引する庄内たがわ農協と連携し、担い手の確保や集落営農の組織化、こだわり米や鳥獣被害の少ない農産物の栽培、地産地消や少量多品目でも流通できる仕組みづくり、また、温海地域の在来作物である焼畑あつみかぶや越沢三角そばの品質の維持や生産拡大による地域活性化、更には、6 次産業化への支援により農家所得の維持向上、高齢農家のいきがいづくり及び温海地域の農地の保全を目指します。併せて、焼畑あつみかぶ栽培の伝統農法の継承と再造林の推進を図るため、森林再生循環システムの構築を目指す取り組みにより地域林業の振興を図ります。

また、貴重な地域資源である国指定の伝統的工芸品「羽越しな布」の保存・継承に努めるとともに、新たな商品開発や地域おこし協力隊の協力を得ながら経営の安定に努め、地域の活性化を図りながら農村集落の維持に努めます。

しな織まつりでの実演風景

○主な施策

①温海地域の食文化継承による地域振興（在来作物を活用した地域振興）

温海地域で古くから栽培されている在来作物等の安定生産体制の構築や更なる認知度の向上を図る取り組みと食文化や技術の継承を推進します。また、皆伐跡地で焼畑あつみかぶ栽培等を行い、その後の再造林と保育活動を一体的な事業として取組み、焼畑あつみかぶの栽培技術の継承と再造林経費の捻出による山林所有者の負担軽減についてモデル事業として検証する事業への支援を行います。

②温海地域高齢農業者の生きがいづくり（地産地消の推進、温海産農産物の学校給食使用率拡大）

高齢農業者が生きがいを持って農業を続けられる環境整備を推進するため、少量多品目農産物でも流通できる仕組みづくりや、鳥獣による農作物被害の軽減に取組みます。併せて、産直組織の強化を図るため、学校給食の温海産利用率の向上と県境付近に整備予定の道の駅での販売を視野に入れた複数ある組織の統合の検討を進めます。

③地域資源を活用した農村集落の活性化

しな織協同組合は経営基盤が非常に脆弱であり、しな織関係の売り上げを伸ばしていくためには、生産量を増やす取り組みと合わせて、新商品の開発やＰＲ、首都圏への販売に向けた戦略を強化していく必要があります。併せて地域おこし協力隊の受入れにより組織体制の強化を図ります。さらに、しな織の後継者育成や資源確保の取り組みに対して支援を行います。また、「羽越しな布振興協議会」事業を支援しながら、しな織製品の価値を理解していただくために、製品になるまでのストーリーを PR し、しな織は高価というイメージを払拭します。未利用資源のしなの花を活用した製品を開発し、商品としての目途がたったことから、その販売を支援しながら新商品の開発にも支援していきます。

伝統農法で栽培される「焼畑あつみかぶ」

○具体的事業

事業名	事業内容	事業期間
羽越しな布保存継承体制支援事業	しな織に特化した地域おこし協力隊を受け入れ、しな織のＰＲや販売促進に係る取り組みを強化する。	H31～H33
伝統的工芸品振興事業	国の伝統的工芸品である「羽越しな布」を継承するため、後継者育成や需要開拓等に繋がる取り組みを支援する。	H29～H33
糸の文化で新たな価値創造プロジェクト	鶴岡市が有する「古代（しな糸）」「近代（シルク）」「現代未来（人工蛛糸）」の糸のコラボレーションによる新たな商品開発を模索する。	H31～H32
しなの花活用プロジェクト	しなの花を活用した商品の販売支援（販促ツール作成補助）や慶應先端研との連携による新商品の研究開発を支援する。	H31～H33
温海地域在来作物振興事業	「焼畑あつみかぶ」「越沢三角そば」などの在来作物を活用した地域振興に係る取り組みを支援する。	H30～H33
中山間集落モデル農林業実践事業	皆伐跡地での焼畑あつみかぶやワラビの栽培及び、その後の再造林と保育活動を一体的に展開する取り組みを支援する。	H29～H34
温海地域小ロット農産物集荷システム整備事業	農家所得の向上と高齢農家の生きがいづくりを図るため、道の駅で実施している地域農産物の集荷体制を強化する。併せて、森の産直カーの再配置を支援する。	H30～H32
鳥獣忌避作物栽培支援事業	忌避作物栽培圃場と一般圃場における猿被害軽減比較を調査検証するとともに、忌避作物の栽培を支援する。	H31～H34
産直組織活動基盤強化事業	複数ある産直組織の一本化を検討する協議会を設立し、その活動を支援する。	H31～H33

５．次代を見据えた自治会機能とコミュニティ拠点の機能強化

○施策の方向

地域内の集落が有している特色ある自治機能を尊重し、それぞれの集落が将来にわたって自治機能を維持できるように支援するとともに、高齢者世帯の増加を見据えた新たな情報伝達体制の構築を図るため、住民との対話を重ねながら、その調査研究に取組みます。

○主な施策

①時代に即した情報伝達手段の構築

各自治会において長年使用してきた「有線放送」設備が老朽化し、維持管理に苦慮している現状や人口減少、高齢化の進行等を踏まえ、課題解決手法として、ＩＣＴを活用した「生活支援サービスも統合した新たな情報伝達システム」の調査研究に官民連携して取組みます。

②地域コミュニティの基盤強化

持続可能な集落の将来像を示す「集落振興ビジョン」の策定を進め、ビジョンに基づく自治機能や地域コミュニティ活動の拠点施設を維持する取り組みを支援します。また、自治会単位での活動を補完し、広域的な活動や交流の拠点となっている施設については、その活用方法や管理形態を見直したうえで、施設の機能強化に取組みます。

○具体的事業

事業名	事業内容	事業期間
ICTを活用した課題解決研究事業	各自治会において、情報伝達手段として長年使用してきた「有線放送」設備が老朽化し、維持管理に苦慮している現状を踏まえ、課題解決手法としてICTを活用した「新たな情報伝達システム」の調査研究を行う。	H31～H32
地域コミュニティ基盤強化戦略事業	温海ふれあいセンター及び温海温泉林業センターの機能性向上を図るため、指定管理者と連携のうえ活用手法等の見直しを図りつつ、必要な改修を年次的に行う。	H31～H35
公民館類似施設運営・活動費補助金	自治公民館規模に応じた公民館類似施設運営・活動費補助金を交付し、地域のコミュニティ活動の活発化を促進する。	H29～H33
公民館類似施設整備費補助金	「集落振興ビジョン」に基づき実施する地域コミュニティ活動の拠点施設を維持する取り組みを支援する。	H29～H33

老朽化により維持管理に苦慮している「有線放送」

第２地区運動会の様子

住民の買い物支援の一つ「移動販売車」

６．海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備

○施策の方向

住民が地域を離れる一つの要因と推測される通学・通勤・通院における「距離・時間的ロス～ハンデ」の緩和に取組むとともに、地域が抱える遊休資産や地域を離れた人材との関係性を有効に活かし、それらを地域活力の創造につなげる取り組みにもチャレンジします。併せて、集落コミュニティ活動を促進し、地域住民が将来にわたって暮らし続けられるよう生活環境の維持向上に努めます。

世代間の交流でかぶ漬体験

○主な施策

①資源を活かした地域活力の創造

温海地域内に存する遊休資産、特に廃校の利活用については、市場性の有無や実現性の高い事業スキームについて、想定される事業者との対話により検討を行い、その活用の実現を目指します。また、地域を離れた人材や交流のある人材を関係人口として、ふるさとを支援していただく仕組みづくりを進めます。

②地域に即した生活交通手段の確保

縮小化される地域内の公共交通網の実情を考慮し、新たな住民の「足」の確保を図るため、鶴岡市地域公共交通網形成計画との整合及び地域住民との対話に配慮しながら、より最適な公共交通網形成を目指します。

③次代を担う人材への投資

高校生の通学におけるハンデの緩和を図るため、通学に要する費用に対し一定の支援を行うとともに、地域コミュニティ活動の奨励により、「児童・生徒の郷土愛の醸成」「高齢者が生き生きと暮らせる環境づくり」を目指します。

④高齢者を地域で支えあう環境づくり

外出や買い物が困難になる、70歳以上の一人暮らし、二人暮らしの方を対象に、介護予防活動と買い物支援を一体的に提供することにより、住み慣れた地域でいつまでも生活できる環境を整備します。併せて、温海地域内において移動販売を実施している事業者と連携し、多様な主体による支え合う環境づくりを検討します。また、この取り組みに元気な高齢者に協力者として関わっていただくことで、高齢者を支えあう地域づくりを推進します。

○具体的事業

事業名	事業内容	事業期間
温海地域遊休資産等利活用に向けた市場調査事業	遊休資産である廃校（旧山戸、福栄、五十川小学校）等について、ノウハウのある外部の提案やスキルを活用し施設の有効活用を図る。	H31～H33
温海ふるさとサポートサイト開設事業（関係人口の創出）	地域活動への参加呼びかけ、情報提供や交流などを行うプラットフォームとして、温海ふるさとサポートサイト（仮称）を開設する。	H31～H33
温海地域公共交通網形成事業	路線バス網縮小を見据え、新たな住民の「足」の確保を図るため、地域住民と対話を重ねながら、より最適な公共交通網形成を目指す。	H30～H33
遠距離通学高校生支援事業	既存の「朝日・温海地域高等学校等遠距離通学生徒交通費補助金」事業を、人口減少対策の観点から発展的に制度改正し、地域内人材の確保に資する。	H31～H33
世代間交流及び高齢者笑顔創造奨励事業	「児童・生徒の郷土愛の醸成」「高齢者が生き生きと暮らせる環境づくり」に資する自治会活動を支援する。	H31～H33
「語らい広場」事業	外出や買い物が困難になる、高齢者（世帯）を対象に、介護予防活動と買い物支援を一体的に提供する。併せて、温海地域内において移動販売を実施している事業者と連携し、多様な主体による支え合う環境づくりを検討する。	H31～H33

H28.3で閉校となった旧山戸小学校